

🐾 動物をおびき寄せるエサはどうする？



これからの季節に増えてくる
野菜くず



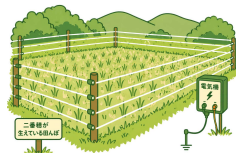
- コンポストに入れる
- 防護柵の内側に捨てる



気が付いたら伸びている
二番穂（稲）



- 二番穂は漉き込む
- 効果のある防護柵を設置したままにする



東栄町ではゆずが多い！
放置された果樹



- 放置果樹は収穫する
- 必要のない木であれば伐採する
- 収穫しやすいように剪定する



🐾 となりの対策見てみようのコーナー

他の家では、どんな獣害対策をしているか気になりませんか？
このコーナーでは、私が現地で見た対策を紹介していきます。

ワイヤーメッシュの上に
電気柵を設置

Hさんの畑では、サルによる被害が出ていました。

玉ねぎを引き抜かれたり、

ナスがほとんど食べられてしまったりと、

大きな被害がありました。

当時はシカ用のワイヤーメッシュ柵がありましたが、
登ることができるサルには効果がありませんでした。



ヤギは好奇心旺盛なので
サル対策にもなります

そこで昨年の夏、ワイヤーメッシュ柵の上に、
家にあった電気柵を3本追加しました。
さらに、飼っているヤギが柵の周りを動き回れるようにしました。
その結果、ここ数年被害を受けていた玉ねぎが、
今年は順調に育っているそうです。
このまま秋まで守れるといいですね。

鳥獣被害対策の 基本編

けもの通信



🐾 鳥獣被害対策って何やったらいいんだろう？

こんにちは！地域おこし協力隊の小川晴那（おがわはるな）です。

最近、「鳥獣被害対策って実際何やったらいいの？」と聞いてもらえることが増えてきました。

関心を持っていただけていること、すごくうれしく思います。なので！

今回は方法論ではなく、鳥獣被害対策の基本的な考え方のお話をしたいと思います。

動物の気持ちになって考えてみると、

「これは動物が来てしまいそうだな」と気づくことができます。

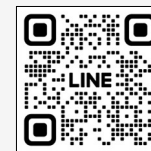
明日はぜひ、動物の気持ちになって、自分の家のまわりや畑を見てみてください。

気軽に鳥獣について相談してもらえるように、【LINEのアカウント】を作りました。

どんなことを聞いたらいいの？

- この糞、なんの糞？
- 柵をしてるのに、動物に入られてしまう。どうしたらいいの？
- 電気柵の立て方が分からない。

などなど、鳥獣の生態や鳥獣被害対策に関する事であれば、なんでもOKです。



🐾 動物の気持ちになってみよう！

動物たちは、自分が生き残りやすい環境を生息地として選びます。

皆さんは野生のサルとしましょう。野生で生き残るために、どのような環境を選びますか？



🐾 動物も「ラクして生きたい」

動物たちは、人間よりもシンプルな考え方で行動しています。

自分が生きやすい場所を選んで生活し、「いい思いをした場所」はしっかり覚えていきます。

そのため、エサが多いなどメリットのある場所にはよく来るようになります。

反対に、危ない(リスク)場所や手間(コスト)がかかる場所は避ける傾向があります。

メリット

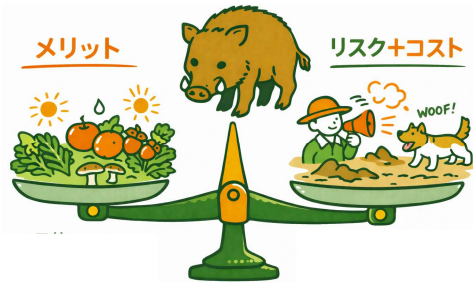
- ・エサが手に入りやすい
- ・エサの質がいい、量がある、安定的など
- ・繁殖しやすいか
- ・水がある

リスク

- ・人の存在(追い払いや捕獲)
- ・捕食者がいる

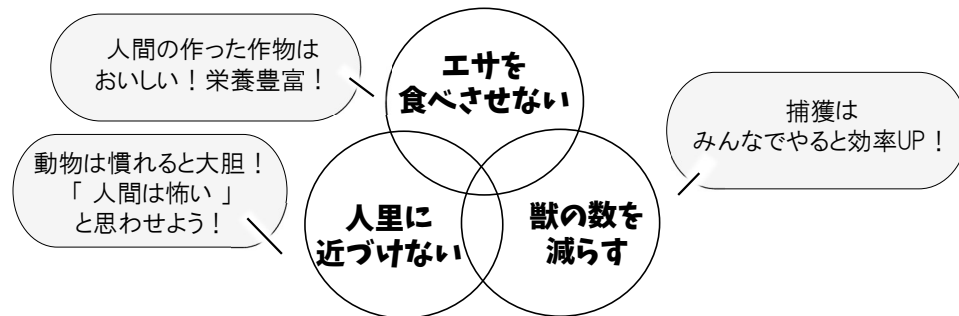
コスト

- ・移動距離
- ・地形
- ・季節変動



🐾 動物の心理を利用して対策を考えよう！

鳥獣被害は3つの柱の考え方をもとに総合的に対策していくことで軽減されていきます。



3つの柱のどれかだけを気を付けて対策をすればいいわけではなく、3つの柱を

- ◎ 順序だて
- ◎ バランスよく
- ◎ みんなでまとまって

実行することが大切です。

🐾 動物が好きな食べ物を減らす

動物たちは、

山にある「食べてもいいエサ」と、

人が育てている「食べてほしくないエサ」の区別が付きません。

動物たちにとっては、

どちらも同じバイキング会場に並んだ食べ物のようなものです。

だからこそ、大切な作物を守るには、

「動物の特性を理解し、
その特性に合った方法」

で対策することが必要です。



これからの季節に増えてくる
野菜くず



気が付いたら伸びている
二番穂(稲)



東栄町ではゆずが多い！
放置された果樹

畑やおうちの近くに、

こういった「動物のエサになるもの」ありませんか？

「どうせ捨てるものだし、食べてもらってもいいかな」と思うかもしれません。

でも、こうしたエサが、

動物に「人の暮らしのそばにはおいしい食べ物がある」と教えてしまっているのです。

しかも、人の食べ物は栄養価が高いため、動物の生存率や繁殖率を高め、
個体数の増加につながる原因にもなっています。

被害を受けたくない作物を守ることはもちろん大事ですが、

こうした「無意識の餌付け」を減らすことも、動物被害対策にはとても重要です。

餌付け対策の方法は裏のページへ！

NO! 無意識の餌付け!!